

企業ニーズから産学連携へ！ -NASCA、一年の状況-

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC副会長 五百藏 弘典

日本の競争力の再構築へ向けて産学連携の重要さが論じられるようになって久しく、その具体化の一環として多くのTLO（技術移転機関 Technology Licensing Organization）が国の補助を得て各地に生まれました。TLOの活動は、大学や公設研究機関の研究成果を預かり、特許化し、その技術（シーズ）を必要とする（ニーズ）企業を見つけ、実施許諾を通じて産学連携の実をあげようとするものです。端的に言えばシーズを前提にニーズを探す活動といえます。

人材不足や日常業務の忙しさから未解決のままの多くのニーズを抱えている中堅・中小企業にとっては、この逆の視点に立った産学連携の推進、企業のニーズを前提に大学などのシーズを探す活動がより効率的です。この活動を初めて組織的に進めているのがATACのNASCA (Needs and Seeds Coordination Activity)なのです。ATACは趣旨にご賛同いただいた企業を定期的にお訪ねし、ニーズをお預かり。お忙しい企業に代わって大学などのシーズを探し、最適な技術や研究者をお引き合わせします。企業の要望が有れば、ATACはコンサルティングとして、共同研究契約や技術指導契約のお手伝いもしますし、共同研究プロジェクトに参加しての研究推進のお手伝いもします。

NASCAは、予備的な活動の後、平成14年度からスタートしましたが、その一年間の状況は次のとおりです。

NASCAをご紹介した企業	226	社
ご賛同いただいた企業	69	社
お預かりしたニーズ	6	件
シーズ調査の対象（延べ）	17	大学
（延べ）	5	研究所・機関
お引き合わせしたシーズ	6	件

お預かりしたニーズやお引き合わせしたシーズ（大学、研究者名など）を具体的にお知らせできれば、制度の趣旨やNASCA活動の必要性をご理解いただきやすいのですが、いずれも製品開発に関わる案件であり、公表が難しい点、ご了解を賜りたいと思います。

ニーズを持って調査に伺った大学や研究機関は、それぞれ独立行政法人化を控えて産学連携に対する意識は高く、その熱意ある姿勢は、企業との協力を進めるのに十分な態勢が整いつつあるとの印象を得たこと、また、お引き合わせしたシーズやご紹介した先生の技術内容については、ニーズをお預かりした企業から、要望を十分に満たすものとのご評価いただき、それぞれの企業で今後の進め方が検討されてることをご報告し、NASCAの意義と可能性をご推察いただき、NASCA活用のご検討をいただければ幸いです。

